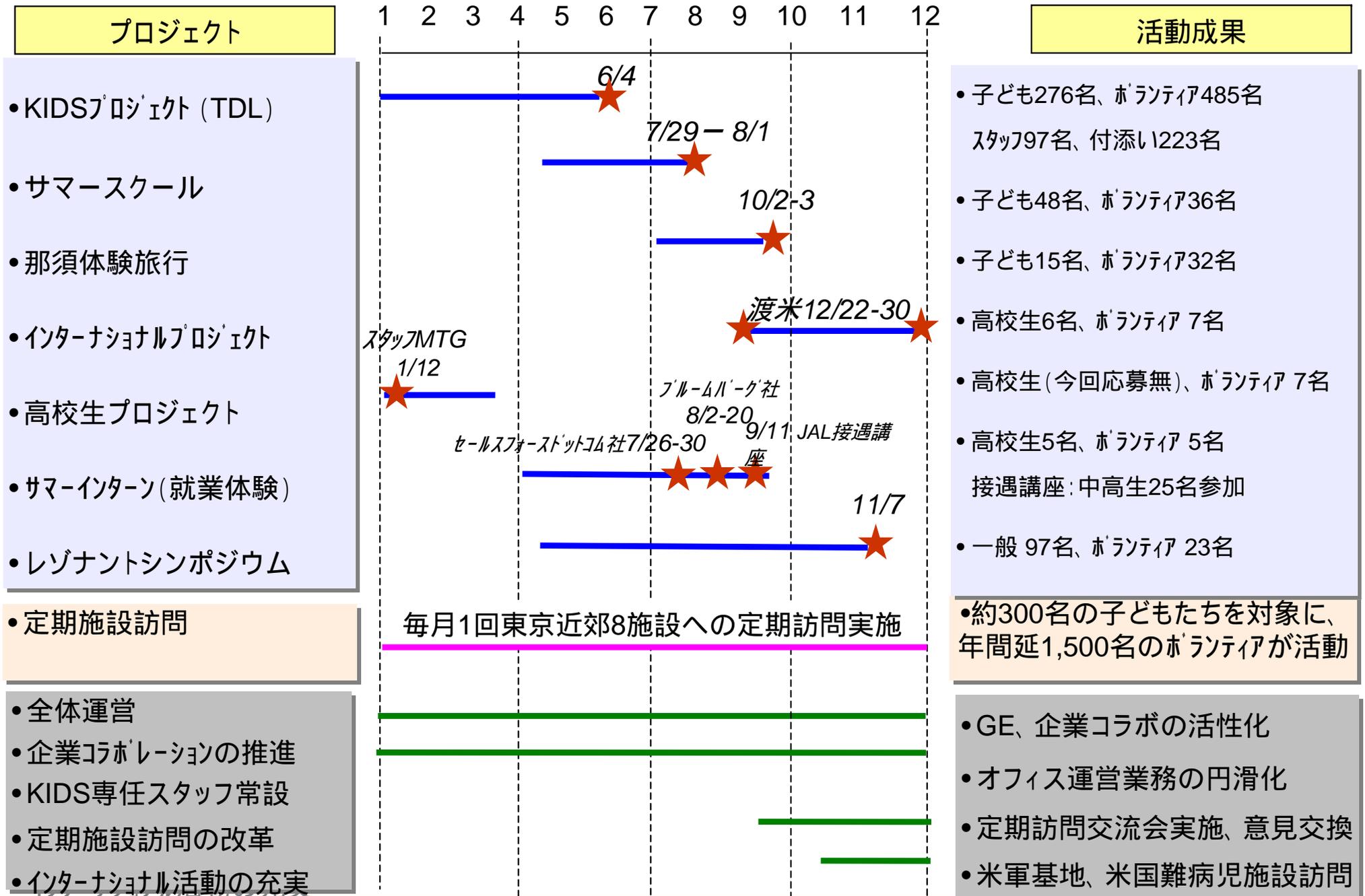




# 2004年事業報告

# KIDS 2004年活動オーバービュー



## KIDSプロジェクト2004

- ディレクター： 大滝 正信
- 開催日時： 2004年6月4日(金)
- 参加者数： 子ども276名、ボランティア485名、付添い子ども49名、付き添い大人174名、スタッフ97名。総勢1,081名
  
- スローガン： 「いっぱい笑顔で、素敵な思い出を!!」
- 狙い： 障害をもった子ども達とボランティアの継続的交流を目指すきっかけ作り。
  
- 主な活動内容
  - ✓ 身体的または知的障害を持った子どもだけを参加対象とした。
  - ✓ ボランティア交流会の実施
  - ✓ 付添い者がいない子ども達とボランティアだけの「ひとり立ちグループ」を設定
  - ✓ 広報活動を通じてボランティア活動を社会へアピールできた。

### 活動の効果

新たな多くの子どもたちとボランティアに出会いの場を提供  
ボランティアへの積極的な働きかけにより、その後の継続ボランティアが増加  
子どもたちに自立心や社会性を養う機会を提供することができた

## KIDSサマースクール2004

- ディレクター： 齊藤 大介
- 開催日： 2004年7月29日～8月1日 高校生リーダー研修会：2004年6月12日  
事前交流会：2004年6月26日 事後交流会：2004年9月 11日
- 開催場所： 県立朝霧野外活動センター
- 参加者数： 子ども：48名、ボランティア：36名 合計：84名
- 狙い： 子どもたちとボランティアが自然の中で共同生活を行うことで、子どもたちの社会性・自立性・協調性を育成する。
- 主な活動内容
  - ✓ 参加募集枠の多様化(自立を目指す身体的ハンディを持つ子ども達を昨年同様募集)
  - ✓ 大自然の中での共同生活(飯盒炊飯、ウォークラリー、自然観察、キャンプファイヤー等)
  - ✓ 事前・事後交流会、高校生スタッフ(大人スタッフ同等に扱う)研修会の開催

### 活動の効果

障害児と健常児に何の壁もないことを参加者全員が理解できた

子どもたちの社会性・自主性・協調性の育成

参加スタッフ間の信頼関係の強化

## 那須体験旅行プロジェクト2004

- ディレクター：中野 大輔
- 開催日時： 2004年10月2日～3日(一泊二日) 事前交流会：2004年9月4日
- 開催場所： 栃木県那須地区 宿泊先：貸し別荘「泉苑」
- 参加者数： 子ども15名、ボランティア32名
- 狙い： 障害児の将来の社会的自立(就労)につながる一つのきっかけとして、就職の実例のあるパン作りの体験の場を提供する。
- 主な活動内容
  - ✓ 知的・身体的な障害を持った子ども(小学生～高校生)が、親元を離れ、ボランティアスタッフと一緒に1泊2日の旅行をする。
  - ✓ 旅行の中で、牧場での酪農体験、宿泊先でのバーベキュー、音楽会を実施した。

### 活動の効果

親元から離れた旅行体験を通して、自立性を伸ばせた  
酪農体験やさまざまな体験を通して、社会性を養えた  
ボランティア初心者も「やってみればわかる」という精神を体得できた。

## KIDS・GEインターナショナルプロジェクト2004

- ディレクター： 寺嶋 崇
- 開催日時： 2004年9月20日～2005年2月5日(うち渡米期間2004年12月17日～26日)
- 主催： KIDS/GEジャパン株式会社
- 場所： Give Kids The World (アメリカ・フロリダ州オーランド)
- 参加者数： 高校生6名、スタッフ12名(うち渡米スタッフ5名)
- 狙い： 高校生が直接心のこもった奉仕活動をすることで、難病の子どもたちへ生きる力を注ぎ込み、同時に自分たちは生きることの大切さ、やりがい、生きがいを認識させる。

### ■ 主な活動内容

- ✓ 3ヶ月の準備期間中、毎週末の英会話レッスン及び文化交流発表の練習
- ✓ 横須賀米軍基地訪問
- ✓ GE elfunのボランティアの方々との交流イベント
- ✓ Give Kids the Worldで次のことを実施した
  - 朝食のサーブその他、GKTWの子どもたちへの奉仕活動(午前中)
  - 歌/よさこいソーラン節/折り紙/習字等のパフォーマンス、日本文化紹介(夜)
- ✓ GE elfun orlando chapter会長宅訪問、ご夫妻及び現地の方々との交流

### 活動の効果

奉仕活動を通して、思いやりの心の習得  
日本文化の再認識、アメリカ文化の体験  
英語力の向上と集団の中でチームワークを作るための精神的な成長

## KIDS高校生プロジェクト2004

- ディレクター： 庄司 一郎
- 活動日時： 通年
- 参加者数： 養護施設在園の高校生の参加応募者なし、KIDSスタッフ 7名
- 狙い： 養護施設在園の高校生は閉鎖的な社会観になりがちな為、社会経験を重ねることで、彼らに社会認識を向上させる事を目的とする。
- 主な活動内容
  - ✓ 高校生の参加応募者0名のため、KIDSスタッフによる数回の定期MTGのみ実施

### 活動の効果

来年度はインターンシッププロジェクトと融合して高校生の就業経験に繋がる活動を目指していく

## KIDSサマーインターンシップ2004

- ディレクター：丹野 幸敏
- 主催： KIDS / ブルームバーグLP社、セールスフォースドットコム社、日本航空.
- 活動日時、場所、参加者数：
  - 7/26～7/30(平日) セールスフォースドットコム社(IT、恵比寿) - 初回 男子高校生2名
  - 8/2～8/20(平日) ブルームバーグLP社(金融情報、丸の内) - 第2回 女子高校生3名
  - 9/11(土曜) JAL接遇講座(航空運送、羽田空港) - 初回 中高生25名参加
- スタッフ数： KIDSスタッフ 5名
- 狙い： 児童養護施設等に在住の高校生(一部活動に中学生も参加)、施設を卒業した18歳以上の学生や未就学者を対象に、就業体験の機会、および将来の自立、仕事やキャリア形成について考えるきっかけを提供する。
- 主な活動内容
  - ✓ オフィス内での一般事務、サポート業務に加え、営業外回りの同行などを体験
  - ✓ インターンシッププログラムで学んだ研修成果や働くことの意義についてプレゼンテーション
  - ✓ 社会に巣立つ準備としてマナーの基礎の習得

### 活動の効果

昨年のブルームバーグに加え、セールスフォースドットコム、JALに新たに協力頂き、子どもたちの体験の場が広がった。高校生達は1週間または3週間を無遅刻無欠勤で無事インターンシッププログラムを修了。

学校生活やアルバイトでは経験できない、職務責任の重さや厳しさを体験し、働くことの意味を考えることが出来た。

当初は大変苦勞をしたが、多くの職場の人々とコミュニケーションが出来るようになった。

素晴らしい人々との出会いを通じて、各自の将来について真剣に考える機会を得たこと。

## KIDS心のレゾナントシンポジウム

- ディレクター：丹野 幸敏
- 主催： KIDS
- 後援： 東京都社会福祉協議会 さわやか福祉財団、東京青年会議所他
- 活動日時： 2004年11月7日(日)
- 場所： 独立行政法人国立博物館 東京国立博物館 平成館 大講堂
- 参加者数： 一般97名 KIDSスタッフ23名

### ■ 狙い：

さわやか福祉財団 理事長 堀田力氏の基調講演やパネルディスカッションにより、企業の社会貢献活動をさらに発展させるための方法論や、今求められているボランティア機会とは、といった論点を、ハンディをかかえる子どもたちの施設の視点や事例を見ながら議論を行う。

### ■ 主な活動内容

- ✓ 基調講演
- ✓ パネルディスカッション
- ✓ 高校生発表

## 活動の効果

企業、施設、NPO、行政、そしてボランティア間のコラボレーションの論議を行えた。  
社会貢献活動の促進に繋がるボランティアハンドブックを作成し、配布できた。

## 定期施設訪問

- ディレクター： 富岡 和広
- 日時： 通年
- 参加者数： 対象となる子ども約300名、延べ参加ボランティア約1,500名
- 狙い： 子どもたちとボランティアの継続的交流を通して、子どもたちに対する継続的社会教育を実現する
- 主な試み
  - ✓ 定期訪問先は、現在 7施設です。毎月1～2回ずつ定期的に訪問を実施した。
  - ✓ 「母子生活支援施設：くらき」「母子生活支援施設：今井城学園」「児童養護施設：茨城育成園」は不定期訪問になっている。
- 課題
  - ✓ 宮代学園への定期訪問の規模がかなり縮小している。従来のボランティア募集の方法以外に、地域に特化したメディアの開拓などが今後の課題となっている。
  - ✓ 定期訪問リーダーの育成も必要である。

### 活動の効果

子どもたちとボランティアとの継続的な活動の定着  
各種プロジェクトと定期訪問との連携強化  
企業とのコラボレーション活性化

# KIDS 2004年度全体運営の活動報告

## 全体運営

- 理事： 丹野幸敏、山本美樹夫、藤本茂、桜井祥一、富岡和広、森本健、石井政暁、井上邦彦、徳久正清  
および各プロジェクト・ディレクター、および資金、広報、データ担当リーダー
- 運営委員会： 毎月1回開催
- 活動方針： 「KIDSの精神を広く社会に共鳴・響かせたい」ということと、これまでに培ってきた子どもたち、ボランティア、協賛企業・団体、による有機的な心の繋がりを、非連続的に広げたいと考え、「心のレゾナント」を2004年度の活動方針としました。
- 機能： KIDS全体運営ビジョンの策定、企画計画承認、各種活動実施推進、資金管理、対外活動、運営諸実務、および運営上の課題対応

### ■ 主なアウトプット

- ✓ 年間活動報告・計画書
- ✓ 各プロジェクトの運営管理
- ✓ 企業コラボレーションなどの推進
- ✓ KIDSオフィス運営
- ✓ KIDSホームページの活用
- ✓ 理事改選

Contact Us

#### KIDSオフィス：

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-2-202

TEL/FAX: 03-3356-4856

ホームページ: [www.kids-npo.com](http://www.kids-npo.com)

Email: [kids\\_tm@hotmail.com](mailto:kids_tm@hotmail.com)

特定非営利活動法人 KIDS 代表者 丹野 幸敏



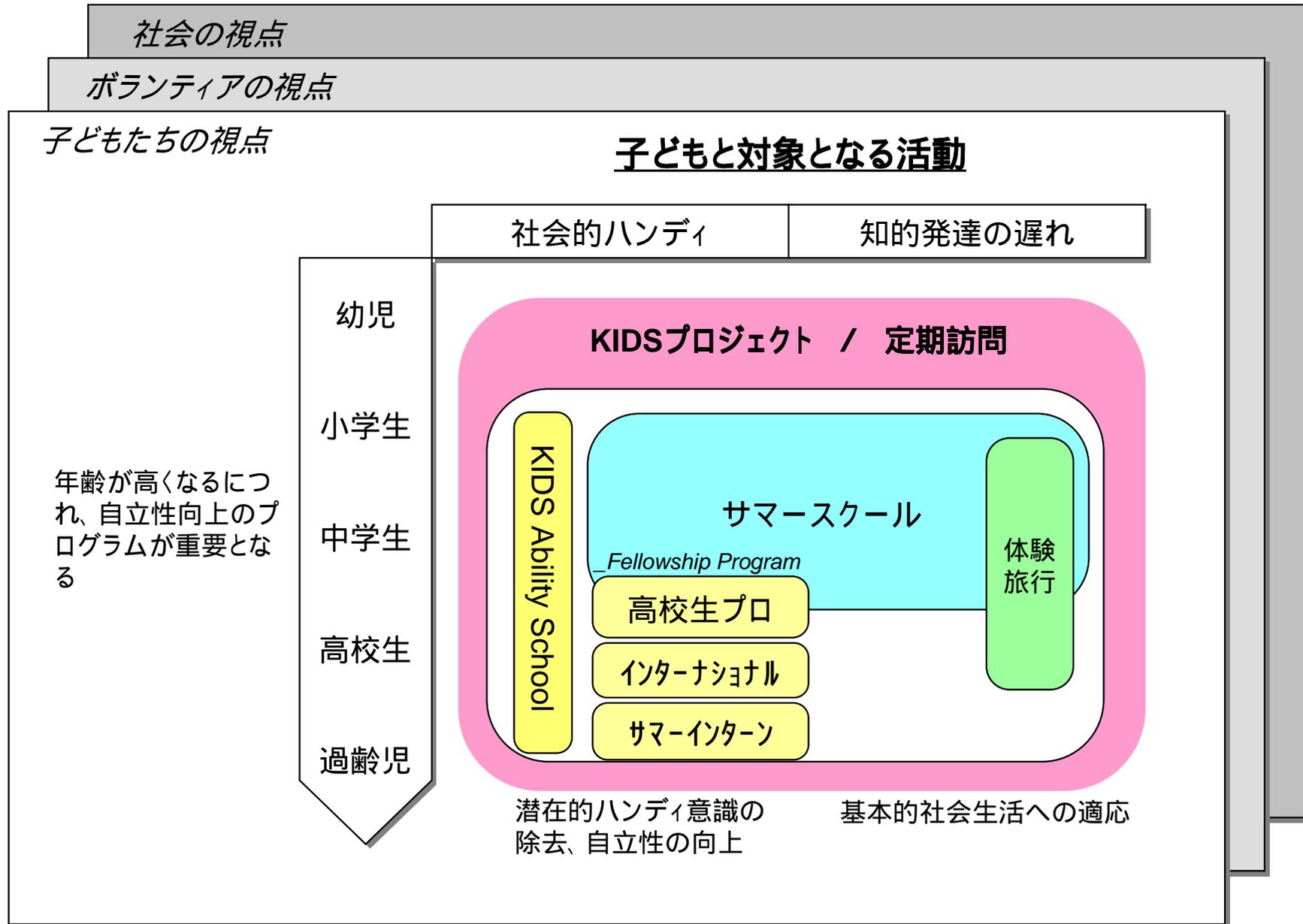
# KIDS 2004年度決算報告(2004年1月～2004年12月)

現金(余剰金) 839万円 (2003年12月31日時点)

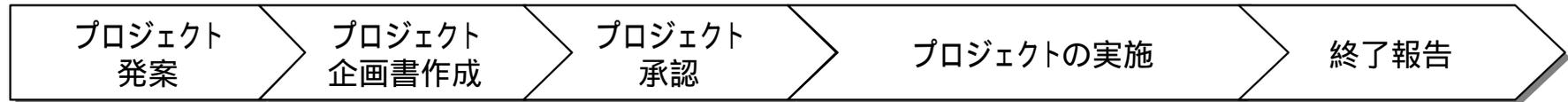
	[予算]	[実績]		
収入	900万円	1,579万円	[収支] 679万円	
内訳: 協賛金、寄付金他	880万円	886万円	6万円	
参加費		682万円	682万円	
会費	20万円	11万円	9万円	
支出	[予算] 920万円	[実績総額] 1,562万円	[持ち出し実績] 554万円	[収支] 366万円
内訳: KIDS	250万円	705万円	154万円	96万円
施設定期訪問	50万円	72万円	18万円	32万円
高校生	30万円	1万円	1万円	29万円
サマースクール	80万円	166万円	109万円	29万円
インターナショナル	120万円	163万円	17万円	103万円
那須体験	30万円	60万円	29万円	1万円
シンポジウム他	50万円	50万円	50万円	0万円
一般支出	310万円	330万円	330万円	20万円
収支	20万円	17万円		
次年度繰越	856万円			

支出の実績総額は、参加費、プロジェクト指名寄付分を加えた金額  
インターナショナルは2004年12月31日現在の集約値

# 2005年活動計画



# KIDS プロジェクト承認プロセス



年間計画

- シンポリックPj
  - TDL
- アソシエートPj
  - Int'l
  - サマースクール
  - 高校生
  - 那須体験
- 新規Pj

計画外

- 年間計画時にアイデアあり
  - 構想案を提出
- 年間計画時にアイデアなし

- テンプレートに基づく企画書の作成
  - 目的
  - スタッフ案
  - 予算
  - スケジュール
  - 安全・リスク
  - 広報方針
  - ファンドレイズ必要性

\* 必要に応じて個別資料を添付

- 総会による年間プロジェクト計画承認
  - 基本的に一括承認
- 否認の場合修正案を作成し、1ヶ月以内に再審議
  - 運営委員会一任
- 運営委員会が総会から権限委譲
  - 基本的に個別承認
- 否認の場合修正案の提出は妨げない

- 各月の運営委員会にて進捗管理
  - スケジュール確認・調整
  - スタッフィング確認・調整(ディレクター交代含む)
  - 予算確認・調整
  - 内容確認・修正
- 運営委員会は必要に応じてプロジェクト中止・延期命令
  - プロジェクト中止・延期書をディレクターが作成(1ヶ月以内)
- 運営委員会によりプロジェクト当日の観察
  - プロジェクト・ディレクター以外、最低1人の運営委員が参加

プロジェクト  
報告書

- プロジェクト実施概要
- 成果
- 予算実績
- 反省事項

\* 3ヶ月以内あるいは12末が提出期限

## KIDSプロジェクト2005

- ディレクター： 小酒 英義
- 開催日： 2005年6月3日(金)
- 参加者数： 子ども270名、ボランティア450名、付添い120名、スタッフ80名
- スローガン： 「未定」
- 狙い：

障害をもった子ども達とボランティアの継続的交流を目指すきっかけ作り。  
および、外出の機会が少ない子ども達に社会参加の機会を提供する。

### ■ 主な試み

- ✓ 身体的または知的障害を持った子ども達、難病による闘病生活のために普段外出の機会が少ない子ども達を参加対象とする。
- ✓ 養護施設在園の高校生にボランティア体験の場を提供する。
- ✓ 広報活動を通じてボランティア活動を社会へアピールする。
- ✓ プロジェクト終了後に参加者に報告書を送付する。

■ KIDS予算： 250万円

■ 参加費(予定)： 子ども 2,000円、付添子ども4,000円、付添大人7,000円、ボランティア 6,000円

## KIDSサマースクール2005

- ディレクター： 尾崎 雄太
- 開催日： 2005年8月4日～8月7日 事前交流会 6月26日 事後交流会 9月11日
- 開催場所： 国立赤城青年の家
- 参加者数： 子ども48名、スタッフボランティア38名
- 対象： 社会的または身体的にハンディキャップを持った小学生から高校生

### ■ 狙い：

親元から離れたキャンプ生活、グループ活動を通じて、社会性や協調性、積極性を育む。

### ■ 主な試み

- ✓ キャンプ生活によるグループ活動や共同生活の体験
- ✓ 自然あふれる環境での学習体験
- ✓ 子どもたちによる自炊
- ✓ 事前、事後交流会の実施

- KIDS予算： 80万円

## KIDS体験旅行2005 in 朝霧高原

- ディレクター： 丸川 雄
- 開催日： 2005年10月15日～10月16日(一泊二日)
- 開催場所： 朝霧野外活動センター
- 参加者数： 子ども15名、スタッフボランティア30名
- 対象： 身体的または知的障害を持った小学生から高校生

### ■ 狙い：

障害を持った子ども達が家族から離れた環境で、ボランティアスタッフと共に1泊2日の期間、共同生活を行なう。その共同生活を通じて協調性、社会性を体験学習する。

### ■ 主な試み

- ✓ グループ活動や共同生活の体験
- ✓ 自然あふれる環境での学習体験
- ✓ 事前研修会の開催

- KIDS予算： 30万円

## KIDS-GEインターナショナルプロジェクト2005

- ディレクター： 未定
- 日程： 2005年12月(10日間)
- 場所： 米国
- 参加者数： 子ども8名、養護施設指導員1名、スタッフボランティア5名

### ■ 狙い：

KIDS親善大使として、ボランティア活動を通じた日米交流を実践し、自主性、積極性、社会的自立の芽を育てる、様々な人との関わり合いの中から自己を表現することを学び、また、他者への理解も深める、グローバルな視点を身につける、ことを目的とする。

### ■ 主な試み

- ✓ 3ヶ月以上にわたり各週末行われるエデュケーション・プログラムへの参加
- ✓ 事前異文化研修、英語研修（GE社ボランティアによる英会話特訓）
- ✓ 米国でのボランティア活動（Give Kids The Worldでの奉仕活動）
- ✓ 養護施設指導員の方への米国福祉環境視察機会を提供する。

■ KIDS予算： 100万円

■ 参加費(予定)：子ども1万円、養護施設指導員5万円、スタッフ5万円

## KIDSフェローシップ・プログラム2005

- ディレクター： 未定
- 日程： 通年
- 参加者数： インターンシップ(就業体験)：高校生15名、接遇講座：中高生30名  
高校生自主企画による活動：若干名、スタッフボランティア10名

### ■ 狙い：

子どもたちの自主性、社会性を養い、将来の自立準備に向けて活動してきた「高校プロジェクト」と「インターンシップ・プログラム」を融合し、新たに「KIDSフェローシップ・プログラム(Fellowship Program)」として発展させ、加えて子どもたちの秘められた才能の発見と開発、促進を目指す。

### ■ 主な試み

- インターンシップ対象の子どもたち、協力企業の拡大
  - ✓ ブルームバーグ、セールスフォースストコム、JALに加え、モルガンスタンレー、ソニーグループ等へ協力企業を拡大すると共に、多様な高校生の受入にも応えるプログラムとする
- 高校生自主企画活動の継続・促進
  - ✓ 引き続き、高校生による自主企画(継続型、スポット型)をニーズに応じてサポートする。
- 「習い事、資格サポート制度及び奨学金(仮称)」の創設
  - ✓ 通常では趣味や習い事、資格取得が困難な状況にある子どもたちを資金・制度面でサポートすることで、豊かな心や将来の糧となる能力を育む。また、趣旨に賛同する企業等へ働きかけ、基金及び制度を構築し、KIDS Ability School構想の一部とする。

### ■ KIDS予算：30万円

## 定期訪問

- ディレクター：富岡 和広
- 日時： 通年、9施設に対し、毎月1～2回ずつの訪問
  
- 参加者数： 対象となる子ども約300名、延べ参加ボランティア約1,500名
- 狙い： 子どもたちとボランティアの継続的交流を通して、子どもたちに対する継続的  
社会教育を実現する。
  
- 主な試み
  - ✓ 初心者の受け入れ拡大
  - ✓ 運営の強化およびサポートの拡充
  - ✓ 活動内容の充実・ボランティアのスキルアップ
  - ✓ 地域・協賛企業との協調の推進
  - ✓ 施設間横連携企画
  
- 予算：50万円



# 2005年度全体運営の活動計画

## 全体運営

- 運営委員： (理事) 桜井祥一、藤本 茂、森本 健  
(新理事) 丹野幸敏、山本美樹夫、関口剛、桜井敬貴、富岡和広、徳久正清  
(スタッフ) 各プロジェクト・ディレクター、および広報、データ担当リーダー

- 日時： 通年

- 活動方針： 「見える化」

KIDSがThought Leadershipを発揮し、2004年度方針「心のレゾナント」をさらに進めるため、KIDSのビジョンや運営方針を、誰にでも分かりやすい形に「見える化」していくことを、今年度の活動方針とします。個々の活動においても、その目的、楽しさ、できそう感、達成感、を見える化していくと同時に、KIDSが提唱する心のレゾナントへの気づきや共感を促すことで、より活動の範囲やインパクトを増大させる戦略です。

- 機能： KIDS全体運営ビジョンの策定、企画計画承認、各種活動実施推進、資金管理、対外活動、運営諸実務、および運営上の課題対応

- 活動の重点:

- ✓ KIDS心のレゾナント・シンポジウムの開催
- ✓ KIDSレゾナント・アドバイザリーの設置
- ✓ KIDS年間活動案内の作成および配布 (各施設、企業・団体対象。HPでも公開)
- ✓ 学校・団体・企業・施設とのコラボレーション推進
- ✓ 「KIDS Ability School: KAS」の推進 (各施設、企業とのコラボレーション)
- ✓ 定期施設訪問の強化とプログラムの見直し
- ✓ 企業、学校、施設、地域ボランティアセンターとのネットワーク接続強化
- ✓ 人材発掘と育成

# KIDS 2005年度予算計画

## 支出

■ プロジェクト予算	520万円
➢ KIDSプロジェクト	200万円
➢ サマースクール	90万円
➢ インターナショナル	120万円
➢ フェローシップ	30万円
➢ 体験旅行	30万円
➢ シンポジウム	50万円
■ 定期訪問	50万円
■ 運営費	300万円
➢ 事務所賃貸料および連絡費など	205万円
➢ オフィス専任スタッフ(パートタイム)	95万円
■ 予備費	50万円
合計	920万円

- キャッシュベース
- プロジェクト予算は、参加費収入などを差し引いたKIDS予算
- 寄付収入などが不足する場合、KIDS資産より充当
- その他、新規プロジェクトを実施する場合は別途検討、運営委員会にて決定し、予備費より充当

## 収入

■ 会費収入	20万円
■ 寄付収入	895万円
■ その他雑収入	5万円
■ KIDS資産からの充当	0万円
合計	920万円